

## 吉原達也先生略歴及び主要業績

### 〈略 歴〉

- |        |        |  |
|--------|--------|--|
| 昭和二十六年 | 六月二十八日 | 三重県に出生   |
| 昭和四十五年 | 三月     | 三重県立津高等学校卒業  |
| 昭和四十五年 | 四月     | 京都大学法学部入学  |
| 昭和四十九年 | 三月     | 京都大学法学部卒業  |
| 昭和四十九年 | 四月     | 京都大学大学院法学研究科修士課程基礎法学専攻入学                             |
| 昭和五十一年 | 三月     | 京都大学大学院法学研究科修士課程基礎法学専攻修了                             |
| 昭和五十一年 | 四月     | 京都大学大学院法学研究科博士課程基礎法学専攻進学                             |
| 昭和五十四年 | 三月     | 京都大学大学院法学研究科博士課程基礎法学専攻単位取得退学                         |
| 昭和五十四年 | 四月     | 文部教官広島大学助教授法学部公法、政経学部併任（昭和六十二年度まで）                   |
| 昭和五十七年 | 四月     | 広島大学大学院法学研究科（修士課程）担当                                 |
| 昭和六十一年 | 四月     | 広島大学大学院社会科学研究所（博士課程）担当                               |
| 平成二年   | 三月     | 文部省在外研究員として、ローマ法研究のためイタリアに出張（ペルージャ大学）<br>（～平成三年一月まで） |
| 平成二年   | 四月     | 文部教官広島大学教授法学部公法                                      |

平成 五年十一月

J・J・バハオーフェン『母権制』（上・下巻、白水社刊）により、平田公夫、春山清純とともに、第三十回日本翻訳文化賞（日本翻訳家協会〈会長佐藤亮一〉）受賞

平成 十三年 四月

広島大学評議員（教務委員会委員長）（～平成十五年三月まで）

平成 十五年 四月

広島大学評議員（法学部）（～平成十六年三月まで）

平成 十六年 四月

国立大学法人広島大学教授大学院社会科学研究所（配置換）、法学部併任

平成 十六年 四月

広島大学法学部長・同評議員（～平成十七年三月まで）

平成 十七年 四月

広島大学法学部長・同評議員（再任）（～平成十九年三月まで）

平成 二十四年 三月

国立大学法人広島大学教授大学院社会科学研究所退職

平成 二十四年 四月

広島大学名誉教授。日本大学法学部教授

主要業績

一 訳書

- 平成元（一九八九）年  
J・J・バハオーフェン『母権論序説・付自叙伝』  
……………創樹社 解説 上山安敏（平成元年十月二十日刊）  
平成四（一九九二）年  
J・J・バハオーフェン『母権制 古代世界の女性支配―その  
宗教と法に関する研究―』上巻  
……………白水社（平田公夫、春山清純と共訳、解説 上山安敏、  
平成四年二月二十日刊）  
平成五（一九九三）年  
J・J・バハオーフェン『母権論 古代世界の女性支配―その  
宗教と法に関する研究―』下巻  
……………白水社（平田公夫と共訳、平成五年四月三十日刊）  
平成九（一九九七）年  
ジャン・アンベール『死刑制度の歴史』  
……………白水社（波多野敏と共訳、文庫クセジュ七九六、平  
成九年十一月十五日刊）  
平成十四（二〇〇二）年  
J・J・バハオーフェン『母権制序説』（解説 上山安敏）  
……………（ちくま学芸文庫、筑摩書房、平成十四年五月八日刊、創

樹社版（平成元年刊十月二十日刊）の改題増補改訂版）

平成十六（二〇〇四）年

J・J・バハオーフェン『古代墳墓象徴試論』

……………白水社（平田公夫と共訳、解説 上山安敏、平成十六  
年二月二十九日刊）

平成十八（二〇〇六）年

ジャン＝マリ・カルバス『死刑制度の歴史 新版』

……………白水社（波多野敏と共訳、文庫クセジュ九〇七、平  
成十八年十二月二十五日刊）

二 編書

平成九（一九九七）年

『日本ローマ法学四先生略年譜・著作目録（初稿）』

……………（春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田  
享一博士（吉原丈司と共編、平成九年三月二十七日刊）

平成十（一九九八）年

『日本ローマ法学四先生略年譜・著作目録（初稿）（改訂版）』

……………（春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田  
享一博士（吉原丈司と共編、平成十年三月一日刊）

『上山安敏先生略年譜・著作目録（初稿）』

……………（平田公夫・吉原丈司・林智良・三氏と共編、平成十  
年三月十五日刊）

平成十一（一九九九）年

『上山安敏先生略年譜・著作目録（初稿）補遺（初集）』

……………（平田公夫・吉原丈司・林智良三氏との共編、平成

十一年七月三十一日刊

平成十五（二〇〇三）年

『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博士略

年譜・著作目録―日本ローマ法学四先生略年譜・著作目録（二

訂版）―ローマ法・法制史学者著作目録選（第二輯）―

……………（吉原丈司と共編、平成十五年十月二日刊）

平成十六（二〇〇四）年

『上山安敏先生略年譜・著作目録（新版）―ローマ法・法制史

学者著作目録選（第三輯）―

……………（吉原丈司・平田公夫・林智良三氏と共編、平成十

六年一月一日刊）

平成十八（二〇〇六）年

『上山安敏先生略年譜・著作目録（二訂版）―ローマ法・法制史

学者著作目録選（第六輯）―

……………（吉原丈司、平田公夫、林智良三氏と共編、平成十八

年五月十五日刊）（付CD-Rom版。）

『春木一郎博士・原田慶吉教授・田中周友博士・船田享二博

士・武藤智雄教授略年譜・著作目録―日本ローマ法学五先生略

年譜・著作目録（三訂版）―ローマ法・法制史学者著作目録

選（第七輯）―

……………（吉原丈司と共編、平成十八年十月一日刊）（付CD-Rom版）

平成二十二（二〇一〇）年

千賀鶴太郎博士・戸水寛人博士・池辺義象氏略年譜・著作目録―

日本ローマ法学七先生略年譜・著作目録（千賀博士・戸水博士限

定追加版）―ローマ法・法制史学者著作目録選（第九輯）―

……………（吉原丈司と共編、平成二十二年三月三十一日刊）

（付CD-Rom版）

平成二十五（二〇一三年）

『リーガル・マキシム―現代に生きる法の名言・格言』

……………三修社（西山敏夫、松嶋隆弘と共編、平成二十五（二

〇一三）年一月十日刊）

### 三 論説・資料その他

昭和五十三（一九七八）年

「永久告示録 Edictum Perpetuum」の再構成について（一）―

訴訟告示と訴訟方式―

……………『法学論叢』第一〇四巻第一号（十一月刊）二八―五五頁

昭和五十四（一九七九）年

「永久告示録 Edictum Perpetuum」の再構成について（二）―訴

訟告示と訴訟方式―

……………『法学論叢』第一〇四巻第六号（昭和五十四年三月刊）

六一―七十七頁

〈報告〉「永久告示録について」

法制史学会第一九一回近畿部会（昭和五十四年六月十七日）

於京都大学楽友会館

「永久告示録 Edictum Perpetuum」の再構成について（三）・

完—訴訟告示と訴訟方式—

……『法学論叢』第二〇六巻第一号（昭和五十四年十月刊）

三十四—六十五頁

〈報告〉「ローマ法学史における『永久告示録 Edictum Perpetuum』について」、法制史学会第二十七回研究大会（昭和五十四年十月十三—十四日）於大阪市立大学

昭和五十六（一九八一）年

〈書評〉岩井経男「ルブリウス法 Lex Rubria de Gallia Cisalpina

について—ローマ共和制末期の都市裁判権—」（文経論叢〈弘

前大学人文学部〉第十四巻第四号史学篇Ⅸ）

……『法制史研究』三〇—一九八〇—（昭和五十六年三月

三十日刊）三七七—三七九頁

古典期ローマの不確定訴訟フォルメルの性格について（一）

……『広島法学』第五巻第二号（昭和五十六年十一月刊）

八十七—一五頁

昭和五十七（一九八二）年

古典期ローマの不確定訴訟フォルメルの性格について（二）

……『広島法学』第五巻第三・四合併号（昭和五十七年三

月刊）二一七—二三七頁

昭和五十八（一九八三）年

Lex Rubria de Gallia Cisalpina について（一）— Edictum

Perpetuum 再構成との関連—

……『広島法学』第七巻第一号（昭和五十八年七月刊）八

十七—二二頁

Lex Rubria de Gallia Cisalpina について（二）— Edictum

Perpetuum 再構成との関連—

……『広島法学』第七巻第二号（昭和五十八年九月刊）十

三—三十四頁

昭和五十九（一九八四）年

Lex Rubria de Gallia Cisalpina について（三）— 完 — Edictum

Perpetuum 再構成との関連—

……『広島法学』第七巻第四号（昭和五十九年三月刊）七

十一—九十六頁

〈辞典項目〉ユスチニアヌス・ローマ法大全 『今日からいか

せるビジネススマンのためのザ・カルチュアバンク』（PHP 研

究所、昭和五十九年三月二十五日刊）所収

D. 39, 2. における未発生損害（damnum infectum）について

……『広島法学』第八巻第二・三合併号（昭和五十九年十二

月刊）二二—五十六頁

〈訳〉ユステイニアヌス帝学説彙纂第三九巻邦訳第二章未発生

損害について、および廂および張り出しについて（二）

……『広島法学』第八巻第二・三合併号（昭和五十九年十二

月刊) 二二一—二三三頁

昭和六十(一九八五)年

〈訳〉ユステイニアヌス帝学説彙纂第三九卷邦訳第二章未発生損害について、および廂および張り出しについて(二)・完

……『広島法学』第八卷第四号(三月刊) 一三五—一四八頁  
ボンポニウス・クイントゥス・ムキウス市民法註解第三七卷

……『広島法学』第九卷第一号(昭和六十年七月刊) 一一—三二頁

〈訳〉ハンス・ヴィーリング「ローマ法における既判力の主観的範囲」(瀧澤榮治と共訳)

……『広島法学』第九卷第二号(昭和六十年九月刊) 九五

一一〇九頁

昭和六十二(一九八七)年

バハオーフェンの古代学—モムゼン批判をめぐって—

……『広島法学』第十卷第四号(昭和六十二年三月刊)

〈編〉「上山安敏先生著作目録」(平田公夫と共編) 上山安敏先生還暦記念

……『ドイツ近代の意識と社会』(ミネルヴァ書房、昭和

六十二年四月二十五日刊) 私家版四二九—四三六頁

〈訳〉ヘルムート・コイニング「二九世紀におけるナシヨナルな法典編纂とヨーロッパ的法論議—近代私法のヨーロッパ的基礎—」(初宿正典と共訳)

……『ドイツ近代の意識と社会』(ミネルヴァ書房、昭和六十二年四月二十五日刊) 一九〇—二〇六頁

昭和六十三(一九八八)年

〈他〉バハオーフェンの『母権論』(家族法今昔)

……『戸籍時報』(日本加除出版) 二月号 二—三頁  
ローマ法源学説の一問題点—D. ネルの所説をめぐって

……『広島法学』第十一卷第三・四合併号(昭和六十三年三月刊) 三〇七—三二八頁

〈訳〉ジュリアーノ・クリフォ「ローマ法およびローマ法的伝統の意義」(西村重雄と共訳)

……『広島法学』第十二卷第一号(昭和六十三年十月刊) 六一—七七頁

平成二(一九九〇)年

〈訳〉マンフレート・リーデル『市民社会の概念史』第一章市民社会(山根共行と共訳) 河上倫逸・常俊宗三郎編訳

……『市民社会の概念史』(以文社、平成二年三月二十日刊) 一一—三三五頁

〈書評〉原田俊彦「*vires neisque potestas*と『家裁判』」(早稲田法学) 第六三卷第三号)

……『法制史研究』三九(一九八九) 平成二年三月三十日刊) 三五—三五七頁

〈他〉バハオーフェン『母権制』を読む(開かれた学問 今法学部では)

……『広大フォーラム』第二八〇号(平成二年四月九日) 平成三(一九九一)年

- 〈辞典項目〉杉村敏正・天野 和夫編『新法学辞典』ローマ法関係項目執筆（アクテियो、インテルポラテियो、引用法、ウルピアヌス、永久告示録、オストラキモス、ガイウス、解答権、学説彙纂、ケルスス、楔形文字法、告示、古代法史論、サビヌス、市民法、十二表法、新勅法、ソロン、ソロンの立法、勅法、勅法彙纂、テオドシウス二世、テオドシウス法典、特示命令、ドラコン法典、トリポニアヌス、パウルス、バシリカ、ハムラビ法典、パピニアヌス、万民法、プロクルス、ヘプライ法、ヘレニズム法、法学提要、ポンポニウス、名誉法、モデステイヌス、ユステイニアヌス、ユリアヌス、ユリス・デイクテियो、リユクルゴス、ローマ古典法、ローマ卑俗法、ローマ法大全）
- ……………日本評論社（平成三年二月二十八日刊）
- 平成四（一九九二）年
- 〈訳〉 J・J・バハオーフェン「女権制について」（平田公夫、春山清純と共訳）
- ……………『岡山大学法学会雑誌』第四十一巻第三号（平成四年二月刊）一七七一—二〇八頁
- 〈報告〉バハオーフェン『母権制』における自然法観（平成四年四月三日法制史学会第四十四回総会、於慶応義塾大学）。報告要旨
- ……………『法制史研究』四三（一九九三）（平成六年三月三十日刊、五一—五二頁）。
- 平成六（一九九四）年
- ……………『他』幻の本「母権制」翻訳（ひと 立ち話）
- ……………『中国新聞』（広島）一月五日号（五版社会）
- ……………『他』自著を語る「バハオーフェン『母権制』」
- ……………『広大フォーラム』（広島大学）第二十五期第五・六号（通巻第三一〇号、三月一日刊）
- 〈報告〉C・スカエウオラの信託遺贈論について（平成六年十月一日法制史学会第四二回研究大会、於島根大学。報告要旨）
- ……………『法制史研究』四五（一九九五）（平成八年三月三十日刊）三七四、三七五頁。
- 平成八（一九九六）年
- 〈他〉『母権制』翻訳記
- ……………『津高同窓会報』（津高等学校同窓会事務局）第三十三号（二月一日刊）
- ……………『書評』熊丸光男「Lex Porcia et exilium」佐藤篤士先生還暦記念論文集刊行委員会編『歴史における法の諸相』（敬文堂）
- ……………『法制史研究』四五（一九九五）（平成八年三月三十日刊）二九二、二九三頁
- 平成九（一九九七）年
- 〈辞典項目〉比較家族史学会編『事典 家族』項目執筆（「家族観—ヨーロッパ社会の家族観」中、1 古典古代の家族観、2 中世の家族観）
- ……………（弘文堂、平成九年二月二十八日刊）一五四—一五六頁
- ……………キケロの弁論術教科書—『構想論』（弁論の諸部分）覚書—

- (一)
- …『広島法学』第二十卷第三号(二月刊)一三三―二五四頁  
 キケロの弁論術教科書―『構想論』《弁論の諸部分》覚書―  
 (二一完)
- …『広島法学』第二十卷第四号(三月刊)一六五―一八二頁  
 キケロの弁論術教科書と法廷弁論―『構想論』と『クインティ  
 ウス弁護術』を素材として―研究代表者・植松秀雄『法とレ  
 トリック―その歴史・理論・応用』  
 ……(平成五年度～平成八年度科学研究費補助金へ基盤研究  
 (A)(二)研究成果報告書 三月刊)一三一―一五頁
- 平成十(一九九八)年
- 〈他〉自著を語る『ジャン・アンベール』『死刑制度の歴史』  
 ……『広大フォーラム』(広島大学)第三十期第三号(通  
 巻第三四六号、十月一日刊)
- キケロの弁論術教科書―『構想論』における論証のトボスと共  
 通トボス  
 ……植松秀雄編『埋もれていた術・レトリック』(レトリ  
 ック研究会叢書五、木鐸社、平成十年十二月一日刊)  
 八三一―一〇八頁
- 平成十一(一九九九)年
- 〈書評〉岡道男訳『キケロ―選集八 哲学二』(岩波書店)  
 ……『週刊読書人』第二三〇〇号(平成十一年九月三日  
 へ金)第四面)
- 西欧的家族観の諸相―家族の比較史のために―  
 ……中川淳編『家族論を学ぶ人のために』(第八章、世界思  
 想社、平成十一年十二月十月刊)一〇二―一二五頁。
- 平成十二(二〇〇〇)年
- 何人も自己自ら占有の性質を変更することを得ず  
 ……西村重雄・児玉寛編『日本民法典と西欧法伝統―日本  
 民法典百年記念シンポジウム』(九州大学出版会、  
 平成十二年二月二十九日刊)二七五―二九七頁。
- 平成十三(二〇〇一)年
- 〈他〉ベルジャヤ大(イタリヤ)(研究者が見た世界の大学と街①)  
 ……『中國新聞』九月四日
- キケロ『トピカ』におけるローマ法学の範例(exempla)  
 ……『広島法学』第二十五卷第二号(平成十三年十一月刊)  
 一五七―二六三頁
- 平成十四(二〇〇二)年
- 『ヘレンニウスへ』(Ad Helenium)第三巻における「記憶」  
 (memoria)について  
 ……『広島法学』第二十五卷第四号(平成十四年三月刊)  
 一一―二二頁
- キケロ『トピカ』とローマ法学(一)  
 ……『広島法学』第二十六卷第二号(平成十四年十一月刊)  
 一一―二〇頁
- 平成十五(二〇〇三)年



キケロ『トピカ』とローマ法学(二)

……………『広島法学』第二十六卷第三号(平成十五年一月刊)  
三三一—五三頁

〈書評〉葛西康徳「古代ギリシアにおける『紛争』に対する対応の二つの側面について—*peithonai/peitio*を手掛かりとして

……………法制史研究第五二号(二〇〇二)(平成十五年三月三十日刊)三〇四頁

〈報告〉ローマ法研究のためのデータベース—現状と課題—  
……………法制史学会第五十一回研究大会(二〇〇三年十月五日)

於名城大学、ミニ・シンポジウム IT時代の法史学の  
の一として。報告要旨法制史研究五四(二〇〇四)

(平成十七年三月刊)二八八—二九一頁

平成十六(二〇〇四)年

バハオーフェン『母権制』とローマ養子法の一側面

……………『法政研究』第七十巻第四号(菅教授・西村(重雄)教授還暦祝賀論文集、平成十六年三月一日刊)五〇三—五二四頁

平成十七(二〇〇五)年

〈他〉『広島法科大学院論集』の刊行によせて  
……………広島法科大学院論集創刊号(平成十七年三月二十日刊)

〈他〉十二世紀の法学教育が求めたもの—広島大学(法学部生へのメッセージ十七)

……………『法学セミナー』第五十巻第八号(通巻第六〇八号、

平成十七年七月十二日刊)

〈他〉はしがき  
……………『現代民法改革の動向Ⅱ 広島大学公開講座』(成文堂、平成十七年十月一日刊)

〈他〉献呈のことは  
……………広島法学第二十九巻第二号(水上千之先生退職記念号、平成十七年十二月二十日刊)

バハオーフェン『母権制』における法の諸相  
……………広島法学第二十九巻第二号(平成十七年十二月二十日刊)一四五—一六八頁

〈訳〉Th・フィーヴェク「ライブニッツ『結合術』と法律学的事例」  
……………広島法学第二十九巻第三号(平成十八年一月三十日刊)一〇六—九二頁

……………『法学部長からのメッセージ「法学への招待」(法学部長・法政システム専攻長)

……………広島大学法学部HP(二〇〇六年七月一日)

平成二十(二〇〇八)年

バハオーフェンにおける神話・伝説・歴史—「タナクイルの伝承」をめぐる—  
……………広島法学第三十一巻第四号(高橋弘先生退職記念号、平成二十年三月二十日刊)一六七—一九〇頁

……………『書評』芹沢 悟「A.F.D.19.2.31における『所有権移転』と事

……………

……………

……………

……………

例提示について」〔『亜細亜法学』第四〇巻一号、二〇〇五年）、同「用益権に関するユリアヌスの法的判断」（同第四一巻二号、二〇〇七年）

……法制史研究五七（二〇〇七）（平成二十年三月三十日

刊）三九六―三九九頁

バハオーフェンの神話解釈『タナキルの伝承』を手掛かりにして

……広島法学第三十二巻第一号（平成二十年六月三十日刊）

一―一二頁

平成二十一年（二〇〇九）年

〈資料〉千賀鶴太郎博士述『羅馬法講義』（一）

……広島法学第三十二巻第三号（平成二十一年一月三十一

日刊）一七―一五六頁

〈資料〉千賀鶴太郎博士述『羅馬法講義』（二）

……広島法学第三十二巻第四号（平成二十一年三月二十日

刊）一六〇―一七八頁

〈書評〉伊藤雅之「古代ローマの対外クリエンテラー―バトロキニウムから見る共和政末期から元首政初期の対外政策」

……法制史研究五八（二〇〇八）（平成二十一年三月三十

日刊）四〇四―四〇八頁

〈資料〉千賀鶴太郎博士述『羅馬法講義』（三）

……広島法学第三十三巻第一号（平成二十一年六月三十日

刊）四三一―六四頁

〈資料〉千賀鶴太郎博士述『羅馬法講義』（四）

……広島法学第三十三巻第二号（平成二十一年十月三十日

刊）一九―二二六頁

平成二十二年（二〇一〇）年

〈資料〉千賀鶴太郎博士述『羅馬法講義』（五・完）

……広島法学第三十三巻第三号（平成二十二年一月二十二

日刊）一〇二―一二八頁

〈訳〉ユステイニアヌス帝『学説彙纂』第二十巻邦訳（一）

……広島法学第三十三巻第四号（平成二十二年三月二十一

日刊）一六三―一七九頁

〈書評〉ウルリッヒ・マンテ／田中実・瀧澤栄治訳『ローマ法の歴史』

……法制史研究五九（二〇〇九）（平成二十二年三月三十

日刊）三五―一三六〇頁

〈報告〉ギリシア・ローマ法の実践的再構成―法廷弁論再現のためのシナリオ作成上の諸問題―（葛西康徳と共同報告）

……法制史学会第六十二回総会（二〇一〇年五月二十九日）

於東北大学 報告要旨法制史研究六一（二〇一〇）

（平成二十四年三月三十日刊）三八五―三八六頁

〈訳〉ユステイニアヌス帝『学説彙纂』第二十巻邦訳（二・

完）

……広島法学第三十四巻第一号（平成二十二年六月三十日

刊）一六三―一七九頁

〈訳〉 キケロ『トピカ』

………広島法学第三十四卷第二号（平成二十二年十月二十九

日刊）九二一六六頁

平成二十三年（二〇一二年）年

〈訳〉 キケロ『カエキーナ弁護論』（一）

………広島法学第三十四卷第四号（平成二十三年三月十八日

刊）一四八一—一三五頁

〈訳〉 キケロ『カエキーナ弁護論』（二）

………広島法学第三十五卷第一号（平成二十三年六月）一〇

六一—九一頁

「何人も自己自ら占有の性質を変更することを得ず」というローマ法準則・再考―サヴィニー『占有法』における占有概念をめぐって―

………広島法学第三十五卷第二号（平成二十三年九月二十八

日刊）一一二五頁

〈訳〉 キケロ『カエキーナ弁護論』（三・完）

………広島法学第三十五卷第二号（平成二十三年九月二十八

日刊）六六一—五二頁

平成二十四（二〇一二年）年

〈訳〉 ユステイニアヌス帝『学説彙纂』第四十八卷第五章茲通

処罰に関するユリウム法註解邦訳

………広島法学第三十五卷第三号（平成二十四年一月二十日

刊）二五一—四三頁

〈書評〉「George Mousourakis, *Ius civile in artem redigere:*

*Authority, Method and Argument in Roman Legal Science*」〔西洋

古代史研究』*Acta Academicae Antiquitatis Kiotoensis* 91

………法制史研究六一（二〇一一年）（平成二十四年三月三十

日刊）、三四五—三四七頁

平成二十五（二〇一三年）年

『リーガル・マキシム―現代に生きる法の名言・格言』

………三修社（西山敏夫、松嶋隆弘と共編、平成二十五（二〇一三年）

一月十日刊）「法は善および衡平の術である。」ほか、八十三項目